

平成27年度 国東市：大分県学力定着状況調査結果（中学校：国語）

1 結果のポイント

- ・偏差値はH26よりも1.6ポイント下がっている。
- ・当該学年が小学校第5学年の時の偏差値49.7よりも0.8ポイント下がっている。
- ・「読むこと」の領域は目標値を下回っている。
- ・「文法・語句に関する知識」「説明文の内容を読み取る」「文学作品の内容を読み取る」「ポスターと発表原稿の内容を読み取る」は、目標値を下回っている。

偏差値	中学校 国語		
	知識	活用	全体
国東市	49.6	47.7	48.9

領域	正答率		偏差値
	国東市	目標値	
話すこと 聞くこと	76.1	75.0	49.2
書くこと	77.4	74.0	50.1
読むこと	46.4	53.2	47.7
伝統的な言語文化と国語 の特質に関する事項	64.6	63.8	50.2

2 課題が見られた問題と指導の改善事項

(1) 読むこと（説明的文章 4）

① 出題のねらい

- ア 文章の展開に即して内容をとらえることができる。（4（1））
- イ 文章の展開をとらえて、その内容を整理してまとめることができる。（4（2））
- ウ 文章の構成や展開をとらえることができる。（4（3））
- エ 文章の展開に即して内容をとらえることができる。（4（4））

② 問題内容

- ア 文中にある「飛ぶ理由がなくなってしまった理由」について選択して答える問題【選択・知識】
- イ 「肉食獣と走鳥類」についての説明をまとめる時に空欄に当てはまる言葉の組み合わせを選択して答える問題【選択・活用】
- ウ 文章の段落構成を図示したものとして、最も適切なものを選択して答える問題【選択・知識】
- エ 文章全体を通して述べられている内容として、最も適切なものを選択して答える問題【選択・知識】

③ 解答状況と指導の改善事項

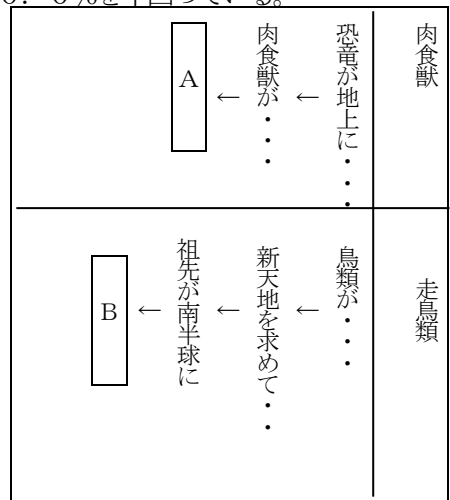
ア（4（1））については、正答率62.6%であり、目標値70.0%を下回っている。

4（1）空を飛ぶ理由がなくなってしまったのはどうして・・・
1 ダチョウの脚力が強くなり、速く走れるようになったから。…………… 26.6%
2 南半球には、ダチョウを餌とする肉食獣がいなかったから。…………… 62.6%

イ（4（2））については、正答率53.2%であり、目標値60.0%を下回っている。

4（2）この文章で説明されている、肉食獣と走鳥類について、次のようにまとめました。A・Bに入る言葉の組み合わせとして、最も適切なもの……………

- ・文章の展開をとらえる力、目的に応じて要約する力が求められる。
- ・段落を順序よく詳細に読むだけで付けられる力ではない。この設問の場合は、要約する観点として「肉食獣と走鳥類」に分けて、それぞれの歴史がわかるようにすること、要約する方法として文章ではなく、表にまとめるということをとっている。
- ・漠然と要約するのではなく、目的、方法や条件を細かく設定した要約させる学習をする中で、読む力が付いていく。



ウ（4（3））については、正答率32.0%であり、目標値40.0%を下回っている。

4 (3) この文章の段落の構成を図示したものとして、最も適切なものを、次から一つ選びなさい。

- ・24～26年度の全国学力・学習状況調査でも課題としてあげられているが、「文章の構成や表現の仕方などについて自分の考えをもつことに課題がある。
- ・この力を付けるために、書き手が文章を書こうとした目的や意図、それに応じた表現の仕方について丁寧に分析するように指導する必要がある。

エ (4) (4) については、正答率41.0%であり、目標値50.0%を下回っている。

4 (4) この文章の内容と一致するものを、次から一つ選びなさい。

- ・文章を読んで要旨をとらえたり、必要な情報を正確に読みとったりする力が必要である。
- ・目的に沿って文章の内容を整理する際に、それらの内容が、使用した資料の内容を適切に取り上げているかどうかを確認するように指導する必要がある。

(2) 読むこと (文学的文章 5)

① 出題のねらい

- ア 登場人物の心情をとらえることができる。(5 (1))
- イ 登場人物の心情をとらえることができる。(5 (2))
- ウ 登場人物の人物像をとらえることができる。(5 (3))

② 問題内容

- ア 文中にある先生の言葉「思いが強すぎる」について、その理由を選択して答える問題【選択・知識】
- イ 文中にある先生の言葉「わたしがもらっていいかしら」について、早弥に対する先生の考えを話し合う会話文を読み空欄にあてはまる言葉として適切なものを選択して答える問題【選択・活用】
- ウ 文章から読みとれる先生の人柄として、最も適切なものを選択して答える問題【選択・知識】

③ 解答状況解答状況と指導の改善事項

ア (5 (1)) については、正答率50.0%であり、目標値60.0%を下回っている。

5 (1) 思いが強すぎるとは、どういう意味だと早弥は理解しましたか。最も適切なものを、次から一つ選びなさい。

- 1 よい結果を残そうという気持ちが強く、それにとらわれてしまって自分を冷静に見られていないということ 50.0%
- 2 勝ち負けにこだわりが強く、自分に何が不足しているかを考えずにやみくもに矢を射るばかりだということ 18.0%
- 4 スランプにおちいっていることに強くとらわれ、自分はいまうまくならないと思いこんでしまっているということ 22.1%

イ (5 (2)) については、正答率40.5%であり、目標値50.0%を下回っている。

5 (2) これ、わたしがもらっていいかしらという言葉について、この文章を読んだ大石さんと堀江さんが次のように話し合っています。□□□□にあてはまる言葉として・・・

- ・「思いが強すぎる」という言葉を心の中で反芻し、心当たりにつれた早弥の様子と、坂口先生の言葉から、言葉の意味をとらえることが大切である。
- ・坂口先生の言葉について話し合う二人の会話文は叙述に即して読み取ったことが述べられている。問題文に再度戻り、早弥の様子に留意しながら坂口先生の判断を読み取る必要がある。
- ・心情を読み取った根拠となる文章事実を示しながら、相手に説明するグループ対話の言語活動を位置づける学習もできる。

大石「坂口先生は、早弥をリラックスさせるために、『煎じて飲むから』という冗談を言ったんだろうね。」
堀江「そうだと思う。早弥について、坂口先生は□□□□と判断したんだね。」
大石「その後の早弥の様子から、坂口先生の考えは早弥にも伝わったみたいだね。」
堀江「坂口先生の『自信を持っていいです』という言葉で、早弥は一歩先に進めるんじゃないかな。」

ウ (5 (3)) については、正答率69.4%であり、目標値75.0%を下回っている。

5 (3) この文章から読み取れる坂口先生の人柄として、最も適切なものを、次から一つ選びなさい。

- ・選択肢1→生徒の思いや気持ちのもちかたに対する記述があり、生徒の精神面よりも技術を向上させようとする人柄にはあてはまらない
- ・選択肢2→生徒一人ひとりの力を認め自信をつけさせようとする会話が記述されており、生徒を競争させて強くしようとはしていない。
- ・選択肢4→生徒からも澤田先生からも頼られていることがわかる会話が記述されており、打ち解けられていないわけではない。

ウ (5 (4)) については、正答率69.4%であり、目標値75.0%を下回っている。

5 (4) この文章の表現についての説明として、最も適切なものを、次から一つ選びなさい。

- ・選択肢1→早弥は、一人だけ立ち遅れており、成長を見せることができなかつた記述があることから謙遜で言った言葉ではないことがわかる。
- ・選択肢2→「大きな心当たり・・・」の後に、大会が心の中に居座っていたという記述があり、先生の体調と関係した表現ではないことがわかる。
- ・選択肢4→「自信を持っていいです」という先生の言葉の後に先生の瞳を見てうなずいており、大会に向かって緊張していく様子を描いているとは言えない。

(3) 読むこと (言語活動に関する問題 6)

① 出題のねらい

ア 発表原稿の構成を考えて、追加する文章を入れる適切な位置を選ぶことができる。(6 (1))

イ 発表原稿の内容を要約して、ポスターにあてはめることができる。(6 (2))

② 問題内容

ア 発表原稿の「下書き」を見直して追加する文を入れる箇所として、最も適切な位置を選択して答える問題【選択・活用】

イ 「ポスター」の言葉にあてはまる3つの言葉の組み合わせとして最も適切なものを選択して答える問題【選択・活用】

③ 解答状況と指導の改善事項

ア (6 (1)) については、正答率21.6%であり、目標値30.0%を下回っている。

イ (6 (2)) については、正答率47.7%であり、目標値55.0%を下回っている。

三班では、総合的な学習の時間に日本文化の特徴について調べ、調べたことを発表します。

私たちは、日本と西洋の庭園の比較から、日本文化の特徴を考え、ポスターにまとめました。これから、このポスターに書いた内容について説明します。
まず、このポスターにあるのは、日本の庭園の写真です。・・・

【下書き】

自然と簡潔
庭園の写真
日本の文化の基本は、
□
□
□
という考えを好む日本人の・・・

【ポスター】

6 (1) 三班では、【下書き】を見直して、次の文を追加することにしました。この文は【下書き】の〈ア〉～〈オ〉のどこに入れるのが適切ですか。

こうして、庭全体が一つの美しい模様になるように造るのです。

6 (2) 【ポスター】の 内にあてはまる三つの言葉としても最も適切な・・・。

- | | | | | | | |
|---|--------|--------|--------|---|-------|--------|
| 1 | 自然との調和 | 素朴な味わい | 華やかな色彩 | (| | 19.8%) |
| 2 | 自然への敬意 | 奥ゆかしさ | 周囲との調和 | (| | 47.7%) |
| 4 | 自然との共存 | 人の手で生む | 独創的な風景 | (| | 24.3%) |

- ・説明的文章を読んで要旨をとらえたり、必要な情報を正確に読みとったりする力を身に付けるために、目的に応じて資料の内容を整理したり、必要に応じて引用したり、自分の言葉で言い換えたりする活動が必要である。その際、使用した資料の内容を適切に取り上げているかどうかを確認するように指導することが大切である。
- ・上記の力は知識として学ぶのではなく、言語活動を行う中で培われるものである。付けたい力を付けるための言語活動を単元に位置付けた実践を行わなければならない。

(4) 漢字の読み書き等について (漢字2、文法3)

① 出題のねらい

- ア 小学校で学習した漢字を書くことができる。(2 (1) ②)
- イ 文節の関係について理解している。(3 (2))

② 問題内容

- ア 漢字を書く【短答・知識】
- イ 例文の文節の関係と同じものを選択する【選択・知識】

③ 解答状況と指導の改善事項

- ア (2 (1)) については、正答率18.0%であり、目標値30.0%を下回っている。
- イ (3 (2)) については、正答率18.6%であり、目標値30.0%を下回っている。

2 (1) ②難民をキュウサイする。書き「キュウサイ - 救済 (正答率 18.0%)」

- ・漢字を書くことについては小学校で学習した漢字の定着が十分とは言えない。漢字は一度覚えても使わなければ忘れてしまう。繰り返し学習できる環境を学校全体で整えることが大切である。

3 (2) 次の文の文節の関係と同じものを一つ選びなさい

太平洋を ゆっくりと 船が 進む

- | | | | | |
|---|----------------------|---|-------|--------|
| 1 | 委員長には 石川さんこそ ふさわしい | (| | 18.0%) |
| 4 | 美術部の 川島さんが ポスターを 書いた | (| | 56.8%) |

- ・「何(だれ)がどうする」「何(だれ)がどんなだ」を表す主語・述語の文節の関係は、述語に対して「～が」の形になれば主語。「も、こそ、さえ、まで、だけ」等も置き換えて不自然でなければ主語になることを確かめ、文全体を見て文節の関係をとらえるようにすることが大切である。

3 指導の改善のポイント

(1) 課題解決的な言語活動を設定した授業づくり

- ・付けたい力を明確にし、その育成に適した「単元を貫く言語活動」を設定した課題解決的な展開の授業づくりを行う。

(2) 多様な図書資料等を活用する授業の推進

- ・学習指導要領の言語活動例を参考にして、情報を活用し、条件に応じて自分の意見や考えを表現する活動の充実を図るとともに、考えを深めたり広げたりする「交流」の場面を単元の中に効果的に位置づける。
- ・「漢字の読み」や語彙量に課題が見られる生徒、まとまった量の文章を素早く読むことが苦手な生徒の学力を育成する基盤として、本に慣れ親しませることが求められる。

(3) 「めあて」の設定や指導にいかすことができる「より具体的な評価規準」の設定

- ・単元の評価規準→指導過程の評価規準→本時の評価規準という道筋で、より具体的な評価規準（概ね満足できる状況）を設定することが求められる。

(4) 国語科授業で取り組むべきこと

① 主に「知識」に課題がある場合に求められる工夫

- ・記述する力を高めるために様々な場面で「書く」活動を設定する。
記述の指導は、「書くこと」の指導だけでなく、3領域1事項に係る様々な活動を効果的に関連させることが重要である。

例（話す聞く）インタビュー等の取材メモ、スピーチ原稿等

（書くこと）鑑賞文、図表などを用いた説明・記録、案内、意見文、批評文

（読むこと）文章を読んで解釈し、自分の考え（感想や意見、評価、批評等）を明確に書くこと。目的に応じて本文を引用したり要約したりすること。

② 主に「活用」に課題がある場合に求められる工夫

- ・条件に即応して記述しなければならない場面を設定する。
時間・時数・文章の形態や種類・文体（常体・敬体・一人称・三人称等）・テーマ・対象・使用語彙・要約・引用・例示・技法（反復・倒置・比喩・反語等）・構成等条件を踏まえる必然性のある活動を設定する。

(5) 学校全体で取り組むべきこと

- ・漢字や語句、文法、表現技法等の確実な習得には、繰り返し練習が不可欠。
特に漢字は一度覚えても使わなければ忘れてしまう。繰り返し学習できる環境を学校全体で整えることが大切である。国語科だけでなく、各教科のノートや生活ノート、学級日誌等、様々な場面での指導が望まれる。
- ・全校一斉読書や各教科及び領域における学校図書館の利活用
様々な力を下支えするものとして、活字に親しむことが必要である。その際、文学的文章だけでなく様々なジャンルの本を選ぶように指導する（あるいは、その環境作りをする）必要がある。目的に応じて短時間の読書活動を行うことが望ましい。その際、本だけでなく、新聞、インターネット、テレビ、ラジオ等の様々な情報を利活用することが求められる。